

~原子力の
理解を求めて~

えねるぎーかわらばん

Vol.100

福井県原子力平和利用協議会 略称(原平協)
事務局:敦賀市野神40-203 TEL:0770-24-5450
原平協HP:https://genheikyojimdo.com 二次元コード▶



読者アンケートに
ご協力ください▶

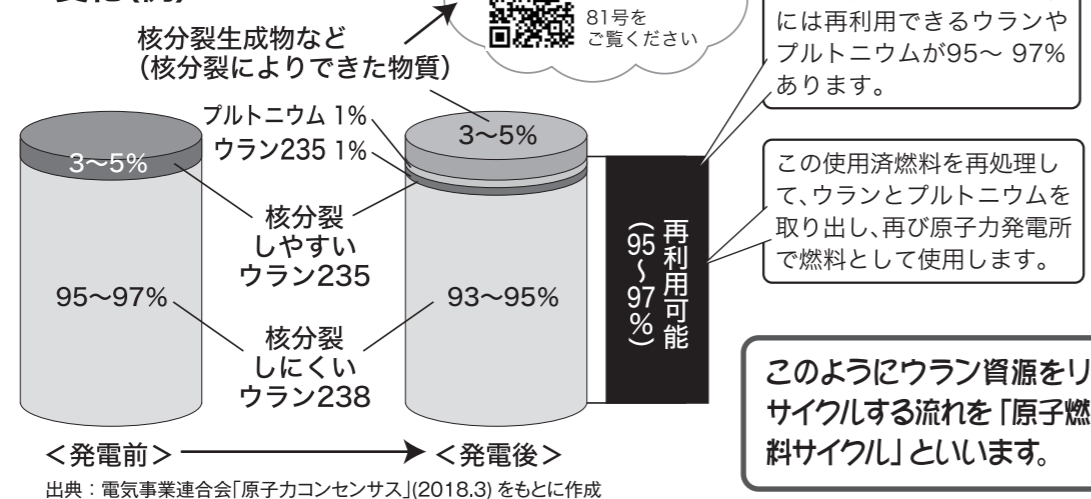


再処理工場運転開始までの 使用済燃料の貯蔵について

再処理工場は青森県六ヶ所村に、日本原燃が2024年度上期
のできるだけ早期に竣工し、2025年より工場稼働を目指して
進められています。この間にも原子力発電所は運転していま
すので、使用済燃料は増えます。その対策として、原子力発電
所ではどのような貯蔵方法を考えているのかをお伝えします。
※図中の「〇〇号をご覧ください」の二次元コードより、より詳しく見ることができます。

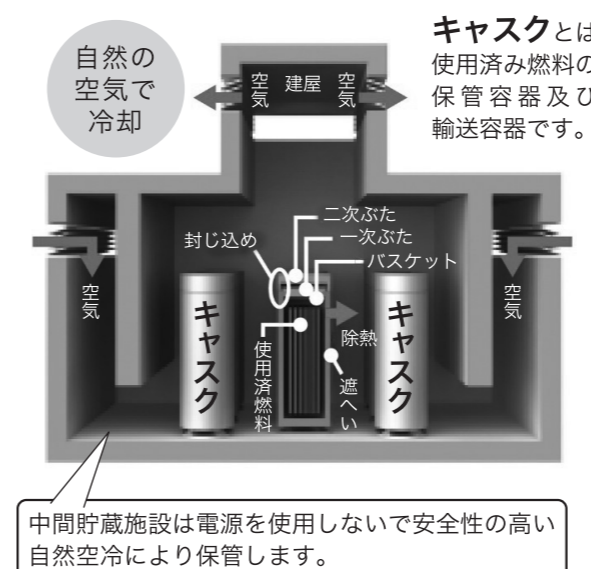
使い終わったウラン燃料は再び燃料として使用できます

■発電によるウラン燃料の 変化(例)



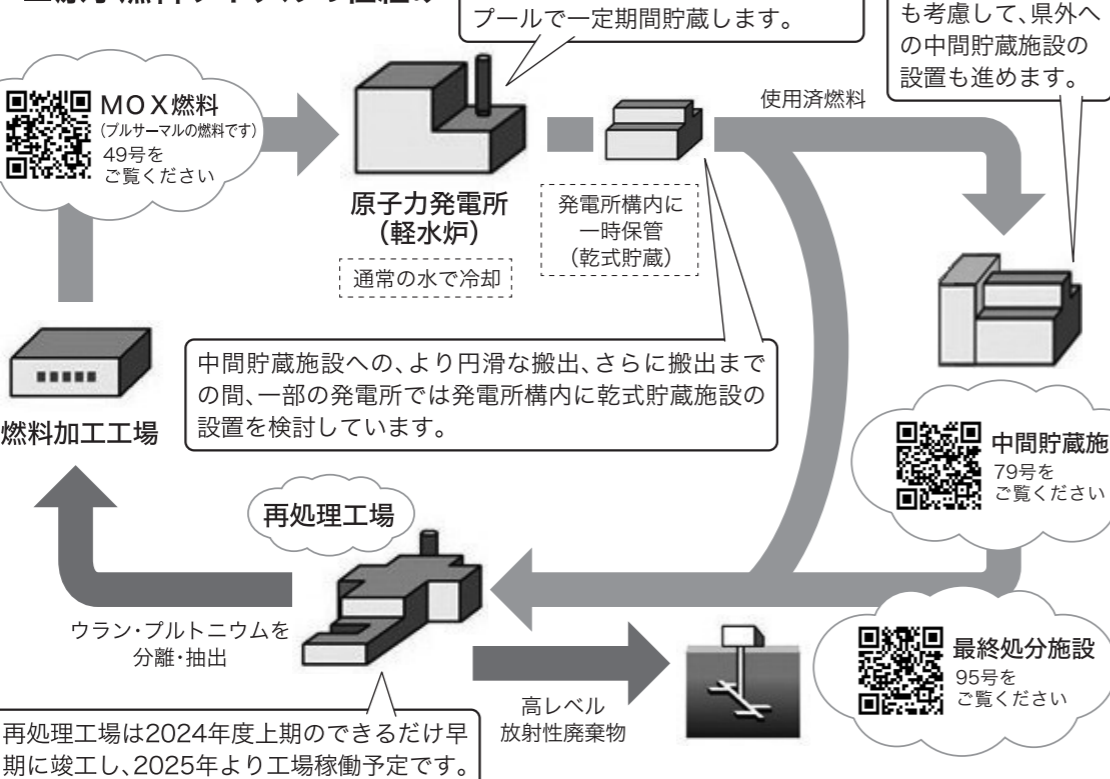
中間貯蔵施設の仕組みと役割

中間貯蔵施設は再処理工場へ搬出するまでの間、
使用済燃料を一時的に貯蔵する施設で、乾式貯蔵
により保管します。



使用済燃料は資源として再処理されるまでの間、 一定期間貯蔵します

■原子燃料サイクルの仕組み



日本では資源の有効利用、高レベル放射性廃棄物の量を減らしたり、有害度を下げる等の観点から、上図のように「原子燃料サイクル」の推進を基本方針としています。

福島視察研修事業を開催

原平協 研修委員会

2023年12月14日~16日の3日間、福井県原子力平和
利用協議会研修委員会事業として「福島視察研修」を開
催致しました。

各支部から原平協会員と電力事業者17名と福井大学
附属国際原子力工学研究所の宍田教授と学生の皆様7
名が参加され、東京電力廃炉資料館や東日本大震災・
原子力災害伝承館、除去土壌を管理する中間貯蔵工事
情報センター等を視察して参りました。

今回の事業を通じて、原子力エネルギー促進のため
には、安全性の確保と共に防災対応からも目をそらさ
ずにその実効性を理解する必要があり、また同様に放
射性廃棄物の処理問題についても見識を深めなければ
ならないと実感致しました。

また、最終日には原子力工学を専攻する若い学生の
皆さんを交えたグループワークでの意見交換会を実施
し、原子力防災の実効性を学び伝えることや、最終処分
を自分事と考えることは、まさに今を生きる我々「大人
の責任」なのだということを感じさせる機会となりました。
今後この視察で感じたメッセージを映像化し、広
く伝播していきたいと思っております。



本事業は(一財)日本原子力文化財団の企画支援を受けて実施しました。

えねるぎーかわらばん100号の発行に際して

原平協 広報委員会

1998年10月26日(原子力の日)えねるぎーかわらば
んの創刊以来、本日をもって100号の発行を迎えること
が出来ました。これまで地球温暖化などの環境問題や
放射線や原子力のこと、またエネルギーに関する話題
など様々な分野からテーマを抽出し、分かりやすい言葉
や図表・イラストを使って、県民の皆様に向けてご理解
が得られるよう努力して参りました。私たち原平協広報
委員会は一般市民で構成されています。そのためプロ
目線ではなく、市民目線で記事づくりを行っております。
「継続は力なり」という言葉通り、今後も『えねるぎーか
わらばん』の編集・発行を通して原子力への正しい理解
の輪を拡げたいと思っておりますので、引き続き『えねるぎー
かわらばん』を宜しくお願い申し上げます。